

陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます
No.13 2008.4.15

第二号から

『陽気』は、昭和24年5月の創刊、平成21年に60年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事からふり返っていきます。



前身頃下角より二糶五糶下に標し、脇縫目より自然に前下りを描きます。和服袖付を利用したスリーブは、袖口を十五糶に狭め、袖袷より自然に全体を細くして下さい。ベルトは裾を裁った残り布で四糶巾に仕上げ、一糶間隔のステッチをとってしつかり致します。スポーツカラーは好みの型にして自由に取つかえられるようにして下さい。
新鮮な感覚のうちに、は

美しい洋装はつぴ姿

和服よりも洋装の多い若い方々の為に、和服はつぴから誰にも似合うこんなスラックス・スーツにかえてみました。

前ネックの真白なスポーツカラーとウエストベルトに静かに留められた白いバックルは引締まった清楚な感じがいたします。後衿割より下に背丈の標付をし、更にこれを前後の身頃に標する。これより下にペプラム二十五糶延長して残りはヘム代と縫代を残して裁ちます。



背縫より背丈線に沿って左右に八糶の標付をしこれより二糶のダーツを上下にとり、なだらかに狭めます。脇は背丈線で前後身頃に夫々三センチメートル割って狭めます。次に

つぴの本質を失わず新しい時代のつぴはつぴとして美しく着ていただきたいと思えます。

向日葵洋裁文化学院院长
ヤマシ裁縫学院主任教師

山本房野



田中絹代の渡米説も、明日にも実現しそうに伝えられること両三度、一番難点となっていた彼女の渡米中のお小遣いも、松竹が戦前むこうに置いてあった支店に凍結されている金が二万弗あり、邦貨に換算して八百円ばかり。これを自由に使ってもいいというので、今度こそはと張りきっていたのだが、又もやお流れになりそうな雲行き。すっかり腐った絹代さん。(略)
※田中絹代(たなかきぬよ)一時代を築いた大映画女優。



寡黙謹厳の誉れ高い大橋秀治が、殺到する陽気の申込に早朝からてんでこ舞の嬉しい悲鳴をあげている。(略)連日連夜、大阪京都を駆け回る大活躍で、程よく痩せた青山うたが、「それでも苦勞の甲斐があったわね」と……そこへ出勤の正確さにかけてはタイムレコーダーも顔負けの鴨居五郎が、三分遅刻して顔を出す。「ゆうべ陽気の校正でね、あんまり面白いのでつい夜更ししたんですよ」

車返

奈良の猿沢池から南へ、天理を通って桜井へと上街道（上ツ道）が通じている。

この上街道が通る天理市田部町には小字「車返」というところがある。東本詰所から筑紫詰所にかけてのあたりである。この地名の由来には諸説ある。

桓武天皇（七三七〜八〇六）の時代に、征夷大将軍坂上田村麻呂が車（牛車）に乗ってここを通りかかると、にわかに入車（入車）が止まり、どうしても前に進まない。そこを、一人の白髪の老人が通りがかった。「西の方にある八条村の菅田神社の社殿が東を向いておられる。その前を甲冑のまま



「車返」のあたり。東本詰所前から南東向き。手前の道の下を川が東へ流れる。この地は明治の終わりごろまで八町なわて（畦道）という野中の道だった。



菅田神社は近鉄二階堂駅から西北へ1キロほどのところにある。県道になっているが、朱色の鳥居から500メートルほど参道がある。地図を見ると、「車返」から真西に位置する。



菅田神社の社殿。画面中央奥に社がある。確かに南を向いている。社務所もあった。延喜式郷社。延喜式は平安時代に作られた。その中には多数の神社の名前がある。

通ろうとするからじゃよ」と言う。そこで將軍が人をつかわして社殿を南向きに変え、と車はまた動き出した。以来、この場所を「車返」というようになったと伝えられている。

また、こんな伝説もある。
白河天皇（一〇五三〜一一二九）の勅使が、多武峰、大和神社、石上神宮などへの参詣の折、車でここを通るとにわかに入車（入車）が転んだ。不思議に思っ

に馬を七十二頭献上する誓いをたてると、車はなんなく動き出したという。

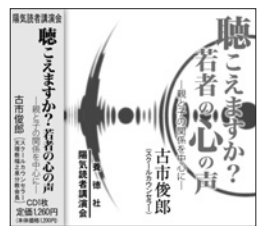
明治七（一八七四）年十二月二十三日、五名のお供を伴い、山村御殿へと向かわれる途中の教祖（御年七十七歳）が、ふと躓いて下唇を怪我された。心配するお供の人々に教祖は、

「下からせり上がる」

と仰せられ、少しも気になさらなかった。——という話が「教祖伝」に書かれているが、これは、奈良県庁からの呼び出しで社寺係の取調べを受けに行かれる道中で、この「車返」を通られたときのことである。そして、それから三日後の十二月二十六日、初めて赤衣を召された。

このあかきものをなんとをもっている なかに月日がこもりいるそや（六〇）
教祖が「車返」で躓かれたこと。そして「下からせり上がる」と仰せられたこと。その場所にまつわる伝説を思い合わせたとき、胸にさまざまな思いが湧いてくる。
（参考『天理のむかしばなし』『天理教事典』『稿本天理教祖伝』）

講演会CDの紹介



聴こえますか？

若者の心の声

—親と子の関係を中心に—
古市俊郎（スクールカウンセラー）
1・260円（税込）

お道も「熱心さだけでは伝わらない」と思い、41歳からカウンセラーの勉強を始め、講師が語る、おたすけに生かせる親子のコミュニケーションの話です。四月号まで『陽気』に連載しました。幼児から小学生、中学生から青少年期へ——成長段階ごとに子どもへの心構えがわかれば、子育ては楽になる。親が心すべきことがやさしく説かれています。「話す」「聞く」意味を、ユニークな表現で再認識させてくれる内容です。
※ご購入は、おちばの各書店でお求めくださるか、直接当社へご注文ください。
（☎0743・62・4503）

養徳社 よもやま話

★先日、弊社駐車場のマンホールから汚水があふれ出た。社員三名が奮闘、バケツを使って汲み出してくれた。やがて水道局の方に来てもらってよく調べてみると、なんと裏の旧社屋の汚物が詰まっていたのだ。平成十三年四月に今の社屋に移ってから丸七年、とんだ置き土産に賑わった一日でした。

★この四月から業務に入ってきたAさん。第一印象は？ と聞かれて「静かな職場」という答え。その静かさがだんだんと喧騒を増していくのですが……
●懸賞工ツセイ募集中！●
一等賞金十万円。詳細は『陽気』五月号をご覧ください！

広告を載せませんか

ようぼくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか？ 掲載料金は、広告の大きさによって異なります。料金は、記事中で一回二万円から。

詳しくは養徳社広告係まで
☎0743・62・4503

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。
養徳社